



くらしかた・すまいかた

Vol.32

経堂の杜

緑豊かな眺めを求めて

東京都世田谷区にある経堂の杜は、2000年3月に建てられた環境共生型コーポラティブハウスです。

コーポラティブハウスとは、そこに家を建てようとする施主たちが集まり、

土地の購入から、各戸の設計に至るまで、事業のコーディネーターや設計者と共に

自らが積極的に関わりながら行う家づくりの手法です。

経堂の杜はそれに加え、「環境共生」というテーマにも取り組み、様々な実践を行った共同住宅として有名です。

今回は、そんな経堂の杜に、途中から移り住むことになったMさんに、

現在の暮らし方・住まい方について、お話を伺いました。

取材・編集：(株)地球工作所 Earth Planning & Work,inc
取材協力・写真提供：Mさん

窓から見える緑

編集部：まずはじめに、経堂の杜に住むことになった経緯を教えてください。

Mさん：我が家は私と夫と猫のすずなりの3人家族で、経堂の杜に住む前は吉祥寺に住んでいました。

吉祥寺にしたのは夫の勤め先までの便が良かったこともありますが、井の頭公園の西園に面したマンションの部屋の窓から見える緑豊かな眺めが素晴らしくて、それが気に入って決めました。

間取りなどは本当に普通のマンションですが、散歩コースとしても最高な玉川上水緑道に接している環境だったので、とても満足して暮らしていました。

編集部：それがなぜ引っ越すことになられたのでしょうか？

Mさん：窓から見えていたマンションの裏の緑地に、5階建ての大型マンションが建つ計画が持ち上がったためです。

編集部：公園なのに開発されてしまうんですか？

Mさん：実はその部分は民有地だったようで、大手の開発会社が入り、開発が進められていました。私たちを含め、近隣の住民から大反対されていたのですが、開発が決まってしまった後で、その決定が覆る余地はないように感じ、私たちは住み始めて1年半くらいだったのですが、窓から豊かな緑が見える新たな住まいを探して、奔走することになりました。

新しい住まい探し

編集部：やはり「緑豊かな眺めのある家」で探されたのでしょうか。

Mさん：はい。場所にはあまりこだわらず、とにかく、窓からたくさんの緑が見える家を探していました。

ほとんど毎週末に物件を見て、それでも見つからなくて、絶望しかけていた時に何気なく「環境 共生」で検索したところ、「経堂の杜」を紹介しているページに辿り着きました。

確か「環境なんとか協議会」というサイトだったと思います。

編集部：それは「環境共生住宅推進協議会」ではありませんでしたか？

Mさん：まさにそれです。

編集部：すごい偶然ですね。お役に立ててよかったです。

Mさん：その記事で「経堂の杜」の存在を初めて知り、名前で不動産情報を検索したところ、ちょうど1部屋、売りに出されていたので、その週のうちに内見に行き、その場で契約しました。ここまで1週間しかかかっていません。

編集部：即決でしたね。どんなところが決め手だったのでしょうか。

Mさん：一番大きかったのは、やはり窓から見える緑ですね。ひと目惚れでした。

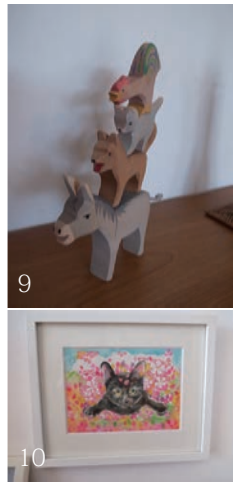
新たな住まいを探して、10ヶ月の間いろんな部屋や家を見てきて、自分たちが住まいに望んでいるものがはっきりしていたのも大きかったと思います。

私たちが購入する前に、2家族が購入を検討していたと聞いています。経堂の杜は定借^{*1}なので、ローンの完済までの期間が短く設定されていて、それがネックになって契約に至らなかったようです。私たちのタイミングが合ったのは幸いでした。

編集部：コーポラティブ形式の住宅であることは気にならなかったのでしょうか。

Mさん：以前から「コーポラティブハウス」の存在は知っていて、日本のコーポラティブハウスの先駆者的な「求道学舎リノベーションハウス」もいいなと思っていました。私が研究でロンドン





1.M さんが一目惚れしたという部屋の窓からの眺め。2 庭に面したバルコニー。3. キッチンからバルコニーに続く扉。4. 壁一面に造りつけられた本棚。5. 居間からキッチンを望む。6 カウンターの側面にも本棚を設置。7. 石張りの浴室は外に面しており、天井がガラス張りなため、日中でも明るい。8-9. 家の中には、M さんご夫妻が旅先で集めた絵画やオブジェがさりげなく飾られている。10. 保護猫のすずなりのシェルター時代の肖像画。

に滞在するタイミングと重なってしまい、断念したことがあります。

編集部：コーポラティブハウスに途中から入居した場合、普通のマンションとは何か違うのでしょうか？

M さん：色々違いますね。まず、私たちが入居する前に、この部屋で居住者の方全員と地主の方が集まって、面接のような、顔合わせの場が設けられました。

編集部：それは普通のマンションではあまりない場ですね。

M さん：ですね（笑）。そこで価値観のすり合わせというか、共有してほしいことなどを伺い、お互いひとまず安心してから、入居の準備を始めました。

経堂の杜の皆さんにとっても竣工後初めての新規住民ということで、どんな人が住人になるのか心配されていたようです。でも私たちの後に新しい居住者が入ってきましたが、この全員での顔合わせのようなことは行われていません。

編集部：初回だけだったんですね。M さんたちは、その後すぐに引っ越してこられたのでしょうか。

M さん：2008 年 12 月の末に引っ越してきました。引っ越し当日は、ちょうど経堂の杜恒例の餅つき大会がある日で、裏の地主の方の庭で賑やかに餅つきをしている声を聴きながら、私たちはひたすら引っ越しの段ボールを開けて、新居に荷物を出していましたね。

編集部：住み始めるにあたって、室内のリフォーム等は行ったのでしょうか。

M さん：我が家はとにかく本が多いので、付けられる場所には全て本棚を作りつけました。それ以外は、元の間取りのままで暮らしています。もともと、二人暮らし用に誂えた家なので、間取りも広さも私たち夫婦にちょうどいい広さで、とても暮らしやすいです。

屋上にミツバチがやってきた

編集部：経堂の杜では屋上で養蜂をされていると伺ったのですが、経緯を教えてくださいませんか？

M さん：2017 年の夏のある日、屋上にミツバチの群れがやってきたことが始まりです。何千匹と塊になっているミツバチを屋上で見たときには驚きました。

住民の一人が、たまたま都市養蜂の専門家を知っていたので、すぐに連絡して、ほどなく専門家が養蜂キットを携えて来てくれたので、試しに屋上へ置いてみました。

編集部：素早い対応ですね。

M さん：ハチの専門家に教えていただいたところ、新しい女王バチが生まれると、元いた女王バチが群れの何割かを引き連れて新たに巣をつくる「分蜂」だということでした。

編集部：そのまま居ついたんですか？

M さん：そうです。養蜂を本格始動する前に、屋上での養蜂活動について全住戸に意見を求めたところ、反対する人はいませんでした。ただ、やりたい人だけがやろうということになりました。

編集部：M さんは養蜂活動に参加されているんですか？

M さん：実は私は虫が苦手だったのですが、「おとぎ話と生きもの」という私の研究テーマにも直結していて、こんなに面白いことはないと思い、参加しています。活動は週に 1 回で、主に日曜の朝に行っています。

編集部：虫に対する恐怖心より、養蜂についての好奇心が勝ったということですね。ミツバチたちはどこから蜜を集めてきているのでしょうか。

M さん：経堂の杜とその周辺です。私は以前から散歩が好きで、経堂の杜に引っ越してきてからも散歩をしているのですが、ここ数年で、散歩道で見かける大きなお屋敷が取り壊され、分譲住宅に変わってしまったところが増えてきました。

大きなお屋敷がなくなると、その庭にあった大木を始め、たくさんの緑が失われてしまうので、ミツバチたちの蜜源にも影響があるのではないかと心配しています。

ミツバチだけでなく、この近くの竹林が分譲住宅として開発された時には、小動物がたくさん逃げてきました。竹藪を棲家にしてる生き物がいた証ですよ。

養蜂をしていると、自分の家の中から見える敷地の中の緑だけでなく、蜂たちが蜜を集めてくる場所、家の周りの緑についても思いを巡らせることが増えてきました。建物と環境はセットであって、それは 1 つの敷地の中だけでなく、まちの緑として繋がっているのだと思います。

経堂の杜の住民交流

編集部：先ほどの養蜂活動の時に少し出てきましたが、経堂の杜の住民組織はどのように運営されているのでしょうか？

M さん：毎年 1 回総会があり、各戸から必ず 1 名は参加することになっています。理事会は理事 2 名と理事長 1 名で構成され、理事のうち 1 名が会計を兼任しています。

編集部：集会所など住民が集まれる部屋があるのでしょうか？

M さん：経堂の杜の中に集会所はありませんので、1 階の共有部に椅子を出して集まっていますね。

編集部：住民交流は、どういう形で行われているのでしょうか。

M さん：年末の餅つき大会は、毎年必ず行われる行事で、住民の大事な交流の機会になっています。各自に役割があるんですよ。それから秋の落ち葉掃除。敷地境界に大きな樺の木が 4 本あるので、秋になると週 3 回ローテーションを組んで掃除しています。あとは共有部の管理も基本的には住民が行っています。庭の雑草

11. 経堂の杜の屋上。12. 冬用の養蜂箱。ミツバチたちが寒さにやられないように断熱材で覆っている。13. 住民が作ったパーゴラとベンチ（写真提供：M さん）。14. 晴れた日には、屋上から富士山が見える。





共同庭にある井戸とベンチも住民の手作り。



夏は枝葉を伸ばし木陰を作り、冬に葉を落とす樹種を植えている。

取りや屋上、3階部分の緑地の管理などです。そういった管理やイベントを通じて、住民同士の交流を深めています。

編集部：養蜂活動のように、住民全員の意見を募りたい時はどうするのでしょうか？

Mさん：基本的にはメーリングリストでやり取りをしています。毎回、全員の意見が必ず一致することはないのですが、異なる意見を持っていたとしても、お互いの価値観は尊重し合えるような関係性は築けていると思っています。

外と内とが、つながる暮らし

編集部：改めて、経堂の杜での暮らしはいかがですか？

Mさん：日々満足して暮らしています。私は窓の外の緑がよく見えるようにカーテンを付けていないのですが、そうすると庭に色んな鳥がやってくるのを見えますし、部屋の中に入ってくる陽の傾きなど、季節の移り変わりがよく分かってとてもいいです。暖かい時期は基本的にベランダに出て、夕食を楽しんでいます。

編集部：素敵ですね。

Mさん：ただ日本の夏は湿度が高く、猛暑も厳しいものです。特に夫は暑さに弱いので、夏の間はロンドンの家に住むことにしています。

編集部：ロンドンの家もやはり室内から緑が見えるような環境なのでしょうか。

Mさん：小さなバードサンクチュアリが目の前にあって、街中ですがそこだけはとても緑豊かな立地にあります。私は散歩が日課なので、家の近くにハムステッド・ヒースという絶好の散歩道があることも、その家の魅力の一つです。

経堂の杜の暮らしで、唯一足りないものは、散歩に適した緑道ですね。

編集部：このまわりは住宅地なのでしょうか。

Mさん：そうですね。川沿いの緑道というものが近くにはありませんし、馬事公苑も今は工事中なので、大きな公園もありません。先ほどもお話したように、広い庭を持つ大きなお屋敷も分譲住宅に変わっていつていますし、まわりの緑はどんどん減ってきています。

窓から見える緑は、必ずしも自分の庭の緑だけではなく、経堂の杜の場合では、ご近所の方たちの庭の緑も、ハチにも人にもとても大切なんです。

どのタイミングでまちの中の緑がなくなるかはわかりませんし、関与することも難しいものです。

ただ、自分の家の窓から見える緑豊かな眺めが、私の暮らしを満ち足りたものにしてくれていることは間違いありません。

編集部：本日は貴重なお話をありがとうございました。（終）

注釈：

※1：定期借地権（借地借家法によって定められた借地権の1つ。定期借地権は一般定期借地権、事業用定期借地権、建物譲渡特約付借地権の3種類があり、存続期間、利用目的、契約方法、借地関係の終了、契約終了時の建物等、それぞれに異なる条件が設けられている。）



経堂の杜バルコニーからの眺め

緑豊かな眺めを求めて

写真提供：Mさん



絶好の散歩道。ハムステッド・ヒース

in LONDON

Isokon（ロンドンの家）の窓の外の緑